

【資料3】

三方湖周辺のふゆみずたんぼに飛来するハクチョウ類

1 調査の目的

平成17年(2005年)以前の三方五湖周辺では、11月から12月にかけてコハクチョウの飛来が観察されることがあったが、滞在は一時的であり、越冬例は確認されていなかった。そこで、海浜自然センターでは、平成18年(2006年)秋から三方湖に近接する地区の農家に呼びかけ、ふゆみずたんぼの面積拡大に協力していただき、ふゆみずたんぼの面積が約2haに拡大した平成18年度から、越冬する群れが観察されるようになった。

その後は、冬季の水田に水を張る「ふゆみずたんぼ」が、無農薬のお米作りや田んぼの生き物の育成に効果を発揮するというメディア等での情報発信や、県や町による様々な営農支援により、「ふゆみずたんぼ」を試みる農家は次第に増加し、若狭町全体で平成24年度(2012年度)には36ha、平成25年度(2013年度)には25haに達した。

とりわけ、三方湖の南に位置する向笠、鳥浜、田名地区の水田では、この「ふゆみずたんぼ」を好むハクチョウ類が日中に休息、採餌し、夜間は三方湖や菅湖でねぐらを取る様子が、三方五湖の冬の風物詩のひとつになってきている(図1、参考資料付図3-7)。

そこで海浜自然センターでは、平成18年度(2006年度)から、ハクチョウ類やガン類などの大型水鳥類の越冬環境に、ふゆみずたんぼが寄与する効果を検証するため、個体数調査を継続している。

2 調査地と方法

調査地は、三方湖南部の向笠・鳥浜・田名集落に囲まれたハス川と高瀬川の合流点より上流側の水田地帯にあるふゆみずたんぼを、主要な地点に設定した。ただし、これらの地域以外に飛来情報があった場合は、それらも一時的に調査を行い(図1)、さらには地域の自然関係者の情報伝達ツールである「ハスプロジェクト推進協議会メールマガジン」に掲載された情報もその都度チェックし、調査データの補完として使用した。調査期間は、ハクチョウ類の初認となった平成25年(2013年)11月15日から、確認するこ

とができなくなった平成26年(2014年)2月28日までの期間中に設定し、午前8時から9時にかけて定期的に、さらに9時から14時にかけては随時、確認されたハクチョウ類の個体数を、8~12倍の双眼鏡を用いて計数した。



図1 調査地位置図 (Google より引用)

3 結果と考察

(1) 調査回数と出現率

調査は、平成 25 年(2013 年)11 月 15 日から平成 26 年(2014 年)2 月 28 日までの 106 日の間に、三方湖西部の島の内地区で 12 日間、三方湖南部の鰐川左岸側の田名から鳥浜にかけての一帯において 79 日間実施した（実施率 0.86）。

このうち島の内地区では、11 月 15 日から 30 日の 16 日間に 12 日間調査し、内 3 日間でコハクチョウを確認した（出現率 0.25）。確認日は、11 月 15、16、29 日で、確認された群れはいずれも成鳥 2 羽と幼鳥 3 羽の家族群であったことから、特定の家族群が一時的に島の内地区を利用したと推察される。しかし、17 日から 28 日までの 12 日間の未確認期間については、三方五湖周辺のどこの水田でも確認されず、どこでどのように過ごしていたのかは、全くわからなかった。

また、三方湖南部の鰐川左岸側の田名から鳥浜にかけての一帯においては、12 月 12 日にオオハクチョウを初認して以降、コハクチョウの終認となった 2 月 24 日にまでは、ほぼ連続してハクチョウ類の群れが確認された。しかし、12 月 12 日から 2 月 24 日の 75 日間のうち、12 日間については調査時間帯にハクチョウ類を確認することができなかつた。種別の出現状況は、オオハクチョウは 55 日間（出現率 0.73）、コハクチョウは 59 日間（出現率 0.79）であった。

(2) 飛来数（図 1、図 2）

オオハクチョウは、平成 25 年(2013 年)12 月 12 日から平成 26 年(2014 年)2 月 21 日にかけて、鳥浜・田名地区の水田において、成鳥 1 羽と幼鳥 1 羽が確認された。

コハクチョウは、平成 25 年(2013 年)11 月 15 日から 11 月 29 日にかけて、三方湖西部の島の内において、成鳥 2 羽と幼鳥 3 羽の家族群が断続的に、また平成 25 年(2013 年)12 月 16 日から平成 26 年(2014 年)2 月 24 日にかけて、鳥浜・田名地区の水田で確認され、その個体数は 3 羽から 55 羽の間で大きく変動した。

国内のオオハクチョウの越冬地はコハクチョウに比べて本州北部以北に偏っているため、本種が福井県で越冬することは少なく、確認個体数もすべて 2 羽だったことから、今季、三方五湖周辺に飛來したオオハクチョウは、他にいなかつたと推察される。さらにオオハクチョウは、昨年 3 羽の成鳥が、初めて鳥浜・田名地区から三方湖一帯で越冬したことから、本年度に飛來した成鳥は、昨年度飛來した 3 個体の内の 1 個体である可能性もある。

一方、コハクチョウの場合は、積雪量や季節の移り変わりによって個体数が大きく変動したことから、異なるいくつもの群れが三方五湖周辺を移動する途中に立ち寄ることで、越冬個体群が維持されていたと推察された。

また、三方湖周辺で越冬するハクチョウ類の最大羽数は、ふゆみずたんぼ面積の拡大に伴って次第に増加傾向にあり、平成 25 年度は過去最大の 55 羽を記録した。若狭町内の平成 25 年度のふゆみずたんぼの面積は、平成 24 年度と比べ 11ha も減少したが、面積の減少がハクチョウ類の飛來羽数に直接的な影響を及ぼさなかつた。このことから、ハクチョウ類が離着陸や休息に利用するふゆみずたんぼの面積がある程度確保されれば、ハクチョウ類も安定して飛來するものと思われる。

(3) コハクチョウの初認および終認（図2、参考資料付図1、2）

今季の田名・鳥浜地区におけるコハクチョウの初認は12月14日で、過去最も遅かった昨年より14日間早かったが、調査を開始した頃と比べ、初認時期が遅い傾向に変わりはなかった。

一方、平成23(2011)年度は、23(2011)年11月27日に3羽の小群が一時的に立ち寄り、連続して群れが確認されたのは23(2011)年12月15日以降であった。本年度も、平成23年度の傾向と同様に、平成25(2013)年11月15日に三方湖西部の島の内で家集群が散発的に確認されたことから、平成23年度の事例と同じような傾向にあったと推察される。

一方、終認日については、2月下旬から3月中旬にかけて年度毎にばらつきがあり、初認日について、特に傾向は認められなかった。

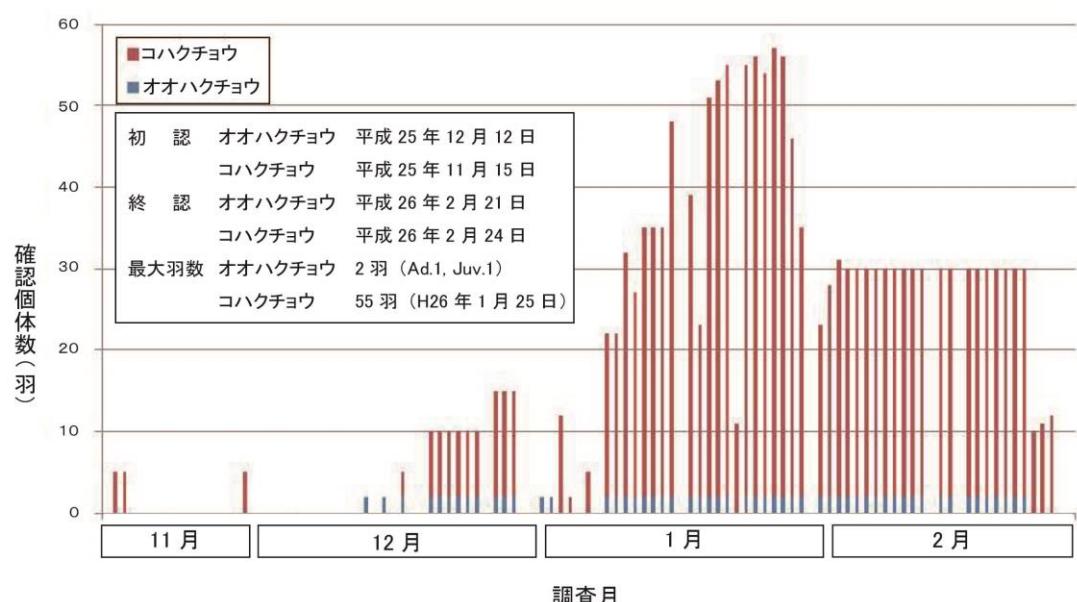
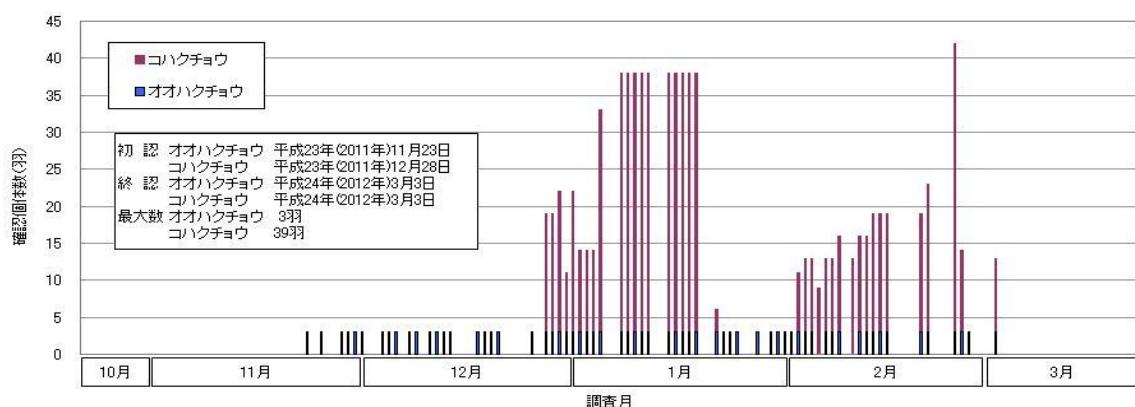
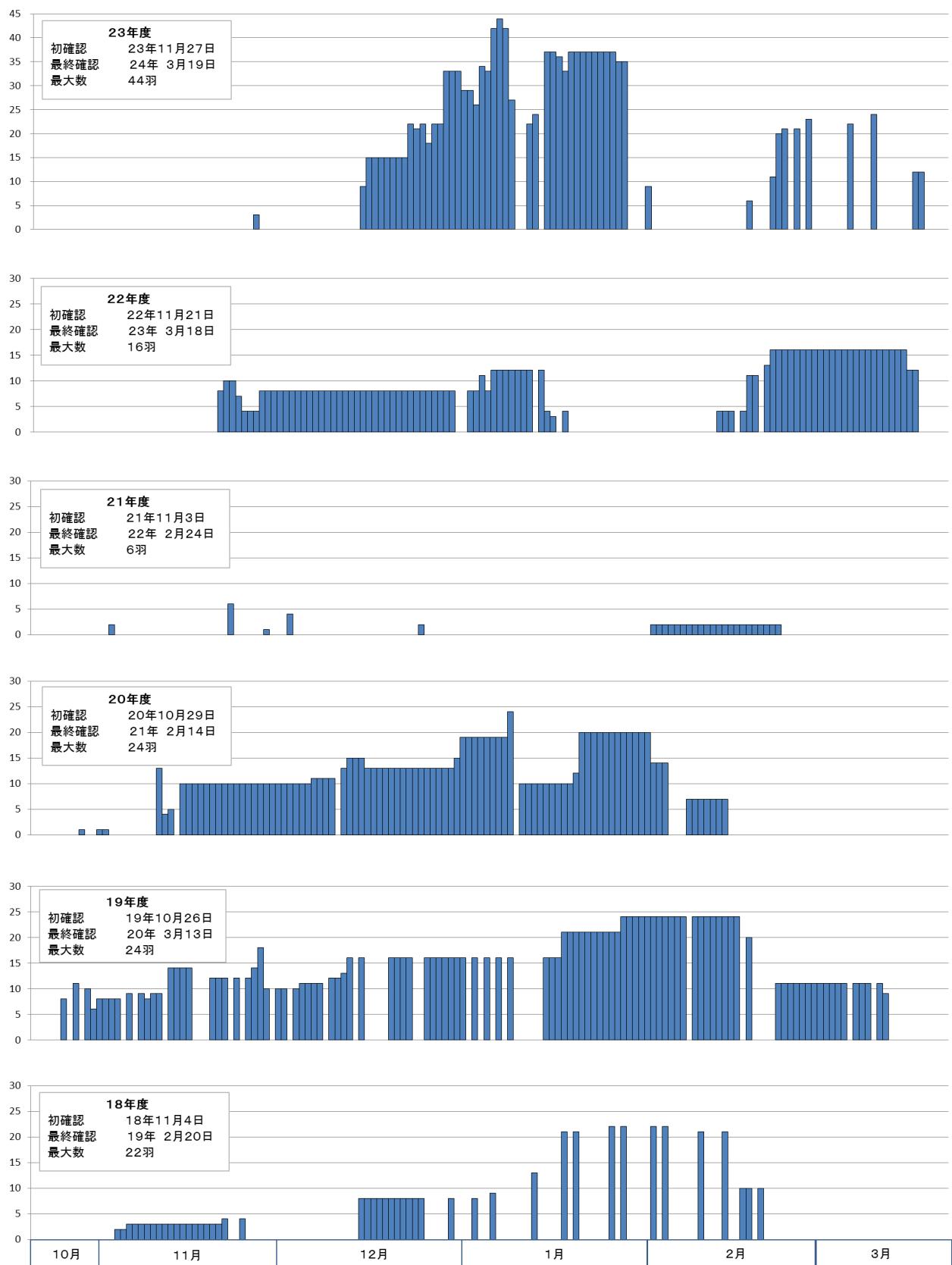


図2 平成25（2013）年度のハクチョウ類の飛来状況

<参考資料>



付図1 平成24（2012）年度のハクチョウ類の飛来状況



付図2 これまでに確認されたハクチョウ類の飛来状況（18年度～23年度）



付図3.

ふゆみずたんぼで休息するオオハクチョウ

2013.12.10 鳥浜～田名



付図4.

二番穂田で採餌するコハクチョウ

2013.12.10 鳥浜～田名



付図5.

島の内の水田で休むコハクチョウ

ただし、右から2羽目はダイサギ

2013.12.10 島の内



付図6.

菅湖で休息するオオハクチョウ

2014.01.07 菅湖



付図7.

菅湖で休息するコハクチョウ

2014.01.07 菅湖